

経営比較分析表（令和6年度決算）

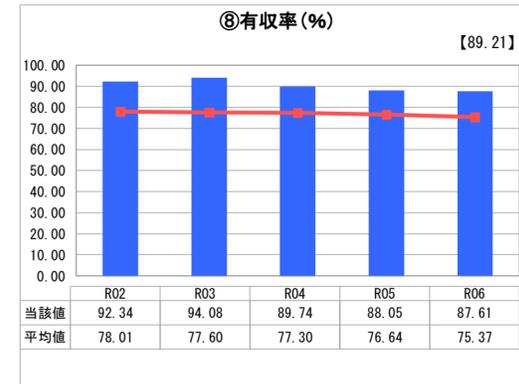
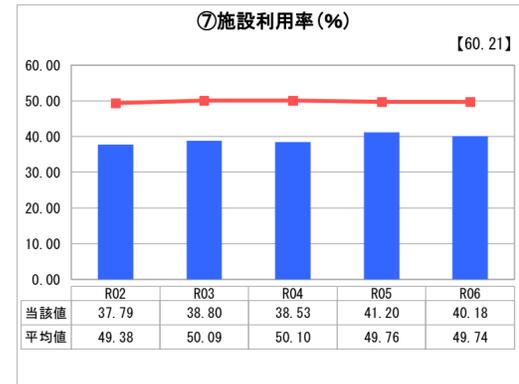
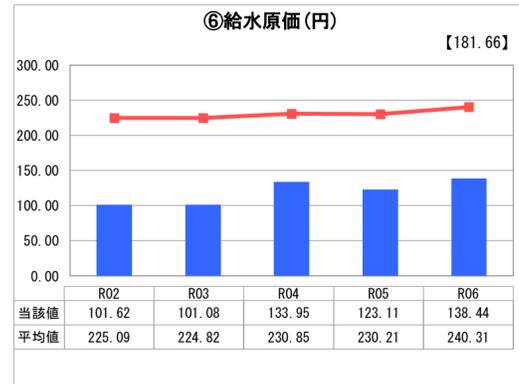
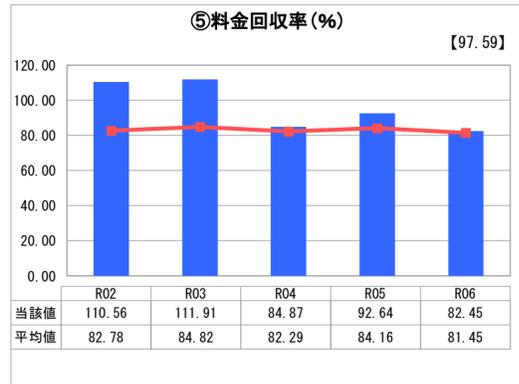
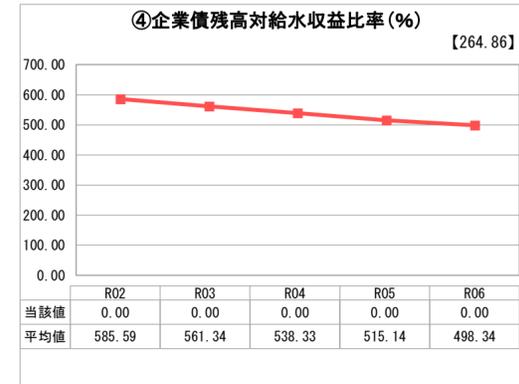
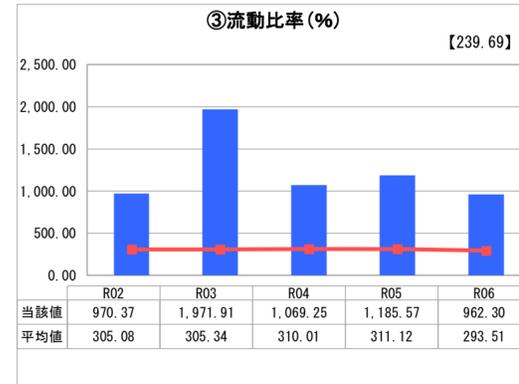
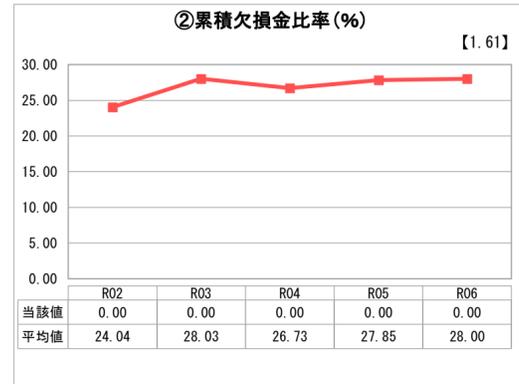
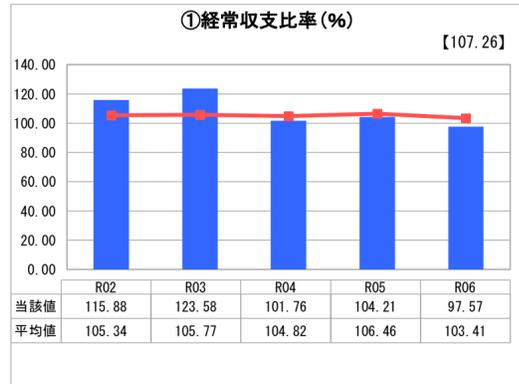
福井県 高浜町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	97.91	96.02	2,057	

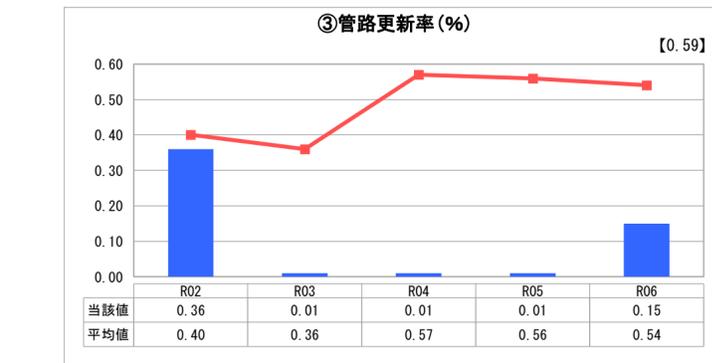
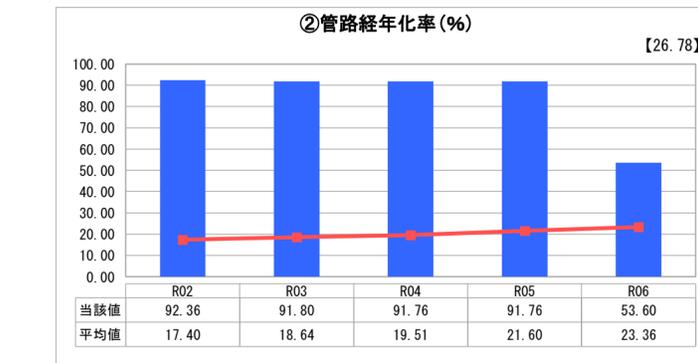
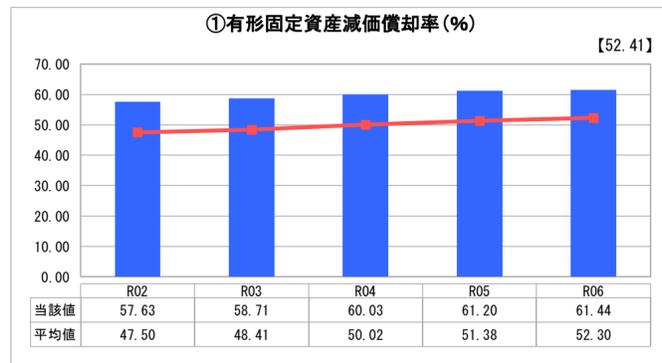
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
9,544	72.40	131.82
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
9,087	8.90	1,021.01

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①有形固定資産減価償却率が高く、管路の大部分が耐用年数満了となる。①経常収支比率、⑤料金回収率においては100%以下の状況となり、⑧有収率においても下落傾向にある。
 ⑥給水原価においては、類似団体平均値を大きく下回っており、維持管理経費等の費用が抑制され効率的に使われているが、⑦施設利用率は、自然人口増加と夏期観光人口の増加を見込んで計画された施設であり、人口減少、観光客の減少等の影響により配水能力を大きく下回る。
 ④企業債残高対給水収益比率は、平成19年度に企業債の償還が全て終了しているため、以降の数値は該当なしとなる。
 今後計画している浄水施設更新、管路更新等の投資を含めると、財源確保が大きな課題であるため、料金改定等の経営状況の見直しを図る必要がある。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率が高いことから耐用年数満了が近づいており、浄水施設をはじめ事業開始当初からの施設の更新・管路耐震化等を計画的に実施していく必要がある。
 ②管路の経年化率においては、管路等管理システム基礎調査業務実施した結果、53.60%まで低下したが、耐震化を含めた管路更新を計画的に推進していく必要がある。
 ③管路更新率については、現在のところ下水工事などの公共工事の際に合わせて更新している箇所もあるが、今後は基幹管路や市街地、町の重要施設への管路を中心に更新事業をしていく計画である。

全体総括

給水人口の減少、節水意識向上・器具等の機能向上など給水量は減少傾向にあるため、今後の施設更新は現況に見合う性能（機能・耐用年数・規模）を検討し、管路についても40年を大きく超える耐用年数の長いものが普及してきており、強靱な施設維持のため、耐震化とともに更新事業を着実に推進していく。
 また、経営戦略を改定し、今後の更新費用の増加と水道料金収入の減少を推測し、適正な価格設定の検討を行い、料金改定による財源確保を図る必要がある。
 以上を踏まえ、将来にわたって持続可能な水道事業を構築するため、「経営基盤の強化」、「災害・非常時対策の強化」、「安心・安全な給水の確保」、「水道サービスの向上」に努めていく。